

研修報告書

山本 真吾

研修名 財政の基礎、歳入の基礎 (講師 今村寛)

日時 2026年3月30日(月)

場所 JA 京都ビル

研修での学び

全国的に自治体の一般財源総額は増え続けている。しかし、10年間で医療費、扶助費といった社会保障費が約3割増えており、これら経常的経費の伸びが一般財源総額の伸びを上回っている。これが「財政が厳しい」の正体。

国は赤字国債の発行が可能だが、地方自治体は赤字を埋めるための借金はできない。社会資本整備のための借金は可能。

頑張って増やしても交付税を減らされる。例えば、20億円の増があっても、交付税が15億円減るため、一般財源は5億円しか増えない。(逆に、20億円の減でも交付税が15億円入るためダメージは少ない)

増やすこと以上に大事な事は、既に行っている事業を「やめる」という政策決定をし、政策的経費を確保すること。

やめない限り、ずっとコストがかかり、新たな政策に投じるお金がなくなってしまう。

スクラップ&ビルドではなく、ビルド&スクラップ。まず先にやるべきことをビルドし、優先順位が低いものをスクラップする。

・今村先生が福岡市財政局時代に行った事

各部署の自律経営

財政課は現場の事をよくわかっていない

→財政に関する権限と責任を現場へ委譲

各部署に予算を配分し、その予算の使い方や優先順位は各部署で決める

→枠配分予算の仕組み